

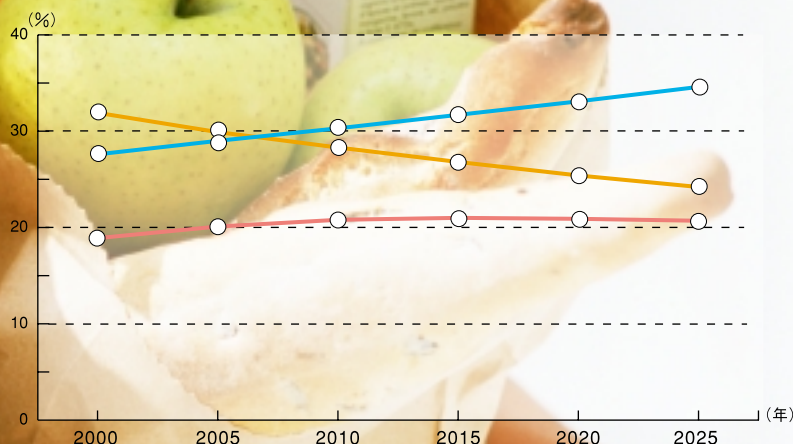
生活科学情報

'06 少子化時代の食スタイル

志向する家族形態による、理想の食スタイルと実現度の違い

2005年の合計特殊出生率は1.25と過去最低を更新し、少子化が進行しています。出生率低下の主因として、初婚年齢の上昇や結婚してから子供を産むまでの期間が長くなっていることが指摘されており、その理由の一つに、「子供を育てる(家族を持つ)よりも自分のスタイルにこだわりたい」といった気持ちがあるのではないかと推測しました。そこで、食についても同様のことが言えると仮定し、家族形態別に『食スタイル』に対する気持ちと実現度を調査し、比較・考察しました。

●世帯の家族類型別一般世帯数の推計



参照:国立社会保障・人口問題研究所
「日本の世帯数の将来推計(全国推計)」

調査対象者

- **単身志向** 生涯独身でいたいと考えている女性(未婚者):150名
- **夫婦二人志向** 夫婦二人で子供は無しがよいと考えている女性(既婚者・子なし):150名
- **一人っ子志向** 子供は一人がよいと考えている女性(既婚者・子供一人):150名
- **子だくさん志向** 子供は二人以上がよいと考えている女性(既婚者・子供二人以上):150名

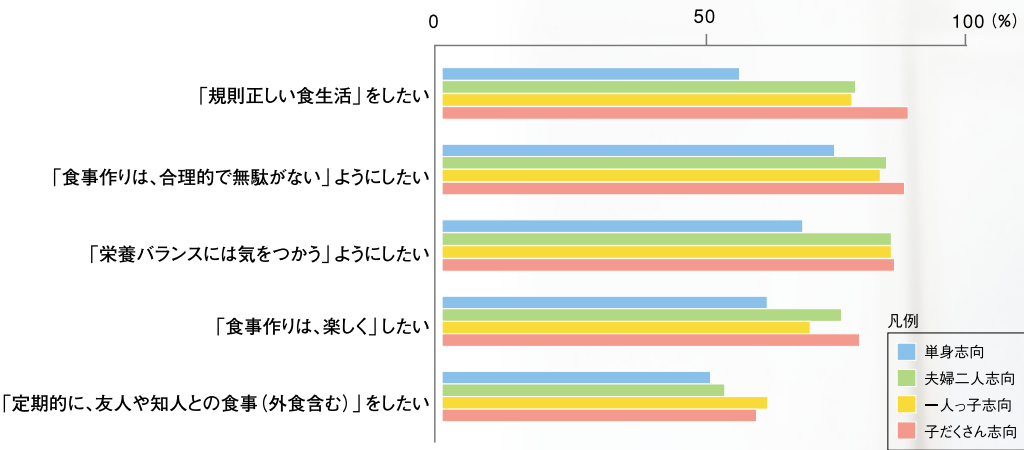
※各20代・30代・40代 50名ずつ

本調査報告書中の「家族形態」とは、今回調査対象とした《単身志向》、《夫婦二人志向》、《一人っ子志向》、《子だくさん志向》の人を指す。また、本調査では、ある家族形態を志向している人のこだわり(意識)と実際の様子(実現度)を比較するため、志向している家族形態と実際の家族形態が同じ人を調査対象としてサンプリングした。

- 今回調査したいずれの家族形態の人も
50%以上が望むスタイル……………p2
- 家族形態別『したいと思う』食スタイルマップ……………p3
- 食の健康・安全性に関するスタイル……………p4
- 食を積極的に楽しむスタイル……………p5
- 食に対するコストや手間へのスタイル……………p6
- 食の情報に対するスタイル……………p7
- 『したいと思う』食スタイルとその実現度……………p8
—家族形態による特徴イメージマップ—

今回調査したいずれの家族形態の人も50%以上が望むスタイル

●家族形態別『したいと思う』スタイル



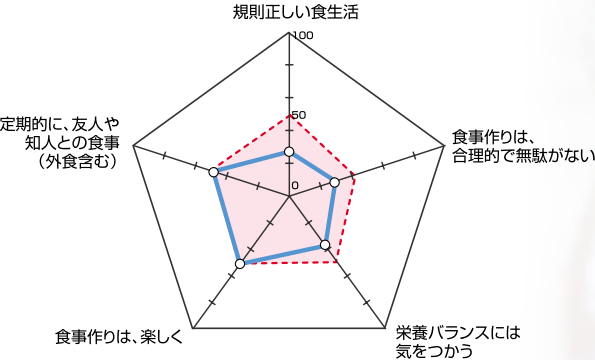
いずれの家族形態でも、50%以上の人が『したいと思う』と答えた食スタイルは、〈健康面(規則正しさ・栄養)〉、〈調理の合理性〉、〈調理の楽しさ〉、〈友人との食事〉など、様々な方面にわたって食スタイルを充実させたい様子がうかがえた。また、家族形態で比較すると、家族人数が多いほど『したいと思う』と答える度合いが強い傾向にある。

●家族形態別『できている』スタイル

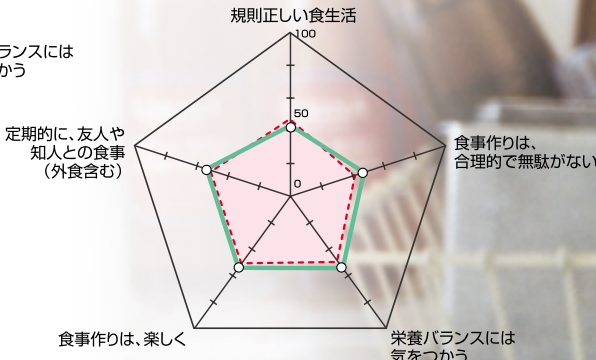
※「したいと思う」と答えた人のうち、「できている」と答えた人の割合。

【凡例】
全体平均値

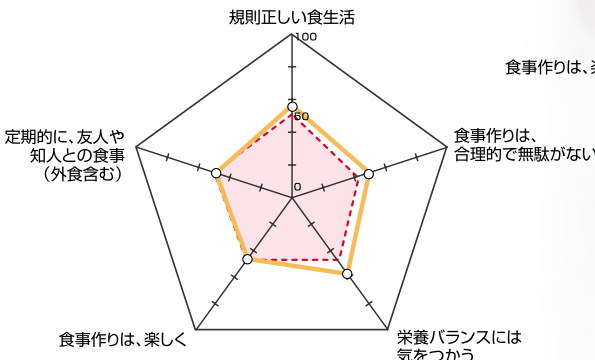
単身志向



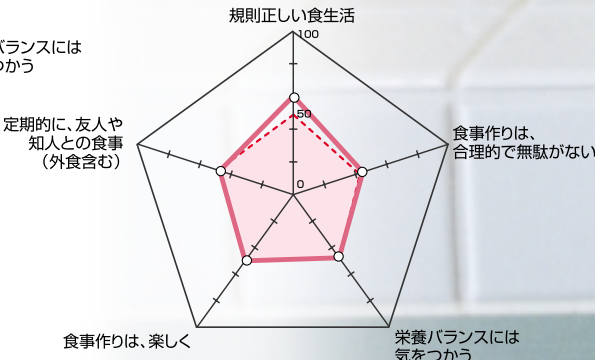
夫婦二人志向



一人っ子志向



子だくさん志向



上記の食スタイルについて、『したいと思う』と答えた人のうち、どの程度の人が『できている』かを家族形態別に見てみると、[単身志向]では実現度の低い項目が多い。一方、[夫婦二人志向]では、比較的バランスよく実現できている。子供のいる世帯では、[一人っ子志向]で「栄養バランス」、[子だくさん志向]で「規則正しい食生活」が他の項目に比べて高いなど、〈健康面〉に関する項目の実現度が高くなっている。

家族形態別『したいと思う』食スタイルマップ

食スタイルに関する様々な項目から、コレスポンデンス分析により、家族形態と『したいと思う』食スタイルの関係をマッピングした。マップ上で位置的に近いものほど関係性が強いといえる。



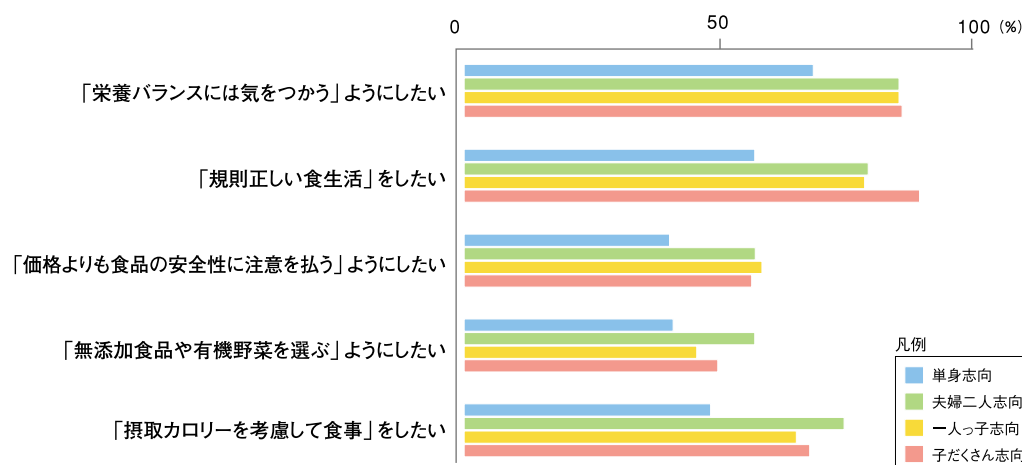
〔単身志向〕では、多くの項目に対するこだわりが低い上に食に対して消極的なスタイルを望む傾向がある。〔夫婦二人志向〕では、デザートやブランド、食器へのこだわりなど、食を楽しくこだわるスタイルを望む傾向がある。子供のいる世帯は比較的近くにマッピングされるが、〔一人っ子志向〕では外食、〔子どもさん志向〕では安全性や健康面へのこだわりが見える。

コレスポンデンス分析:クロス集計の結果から、表頭(今回の場合、“『したいと思う』スタイル”)と表側(今回の場合、“家族形態”)の相関関係が最大になるように数量化して散布図として表現するもの。各“家族形態”に対し、ポイントの高い“『したいと思う』スタイル”が近くにマッピングされる。

※「一人で食事が好き」は、横軸(-2.06)縦軸(-0.02)であるため、マップ上にプロットしていない。

食の健康・安全性に関するスタイル

●家族形態別『したいと思う』スタイル



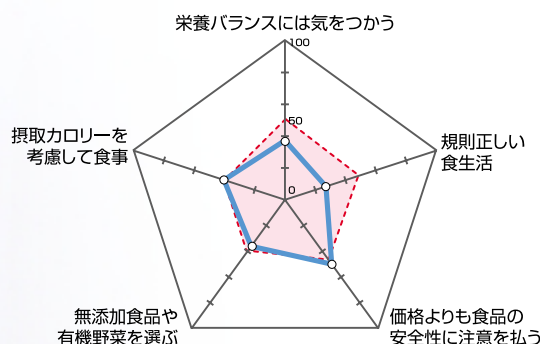
〈健康・安全性〉に関する食スタイルは、4つの家族形態で『したいと思う』度合いの高い項目が多い。特に、「子だくさん志向」では、「規則正しい食生活」に対する意識が高い。また、「無添加食品や有機野菜」や「摂取カロリー」に対して、「夫婦二人志向」の人の意識が高い。

●家族形態別『できている』スタイル

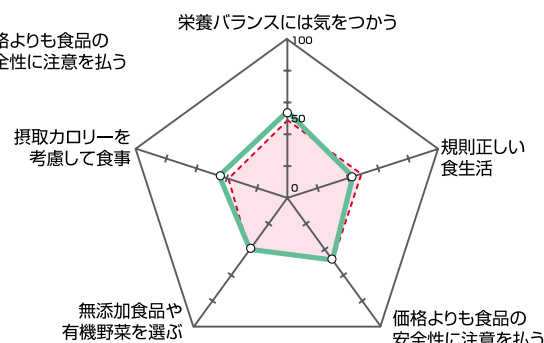
※「したいと思う」と答えた人のうち、「できている」と答えた人の割合。

「単身志向」の人の〈健康・安全性〉に関する食スタイルの実現度を見ると、全体的には低い「食の安全性」に対する実現度は比較的高いことが特徴的である。「一人っ子志向」では、全体的に実現度が高い。「子だくさん志向」では「規則正しい食生活」の実現度は高いが、その他の項目は低めである。また、「カロリーを考慮した食事」は、子供が多いほど実現が難しい食スタイルであることが推測される。

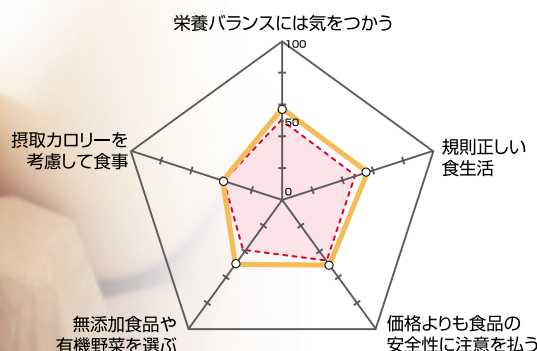
単身志向



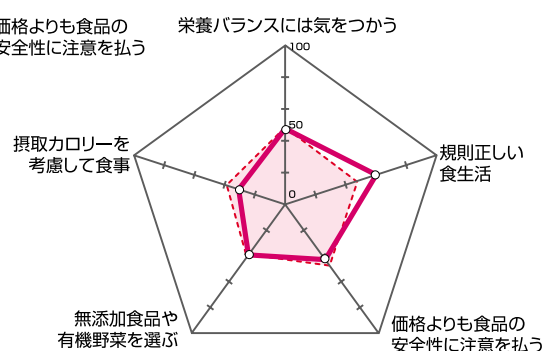
夫婦二人志向



一人っ子志向

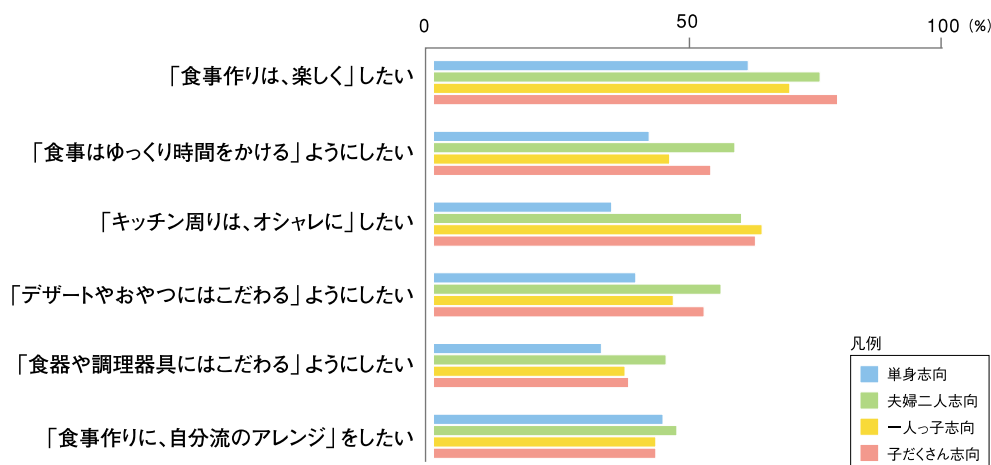


子だくさん志向



食を積極的に楽しむスタイル

●家族形態別『したいと思う』スタイル



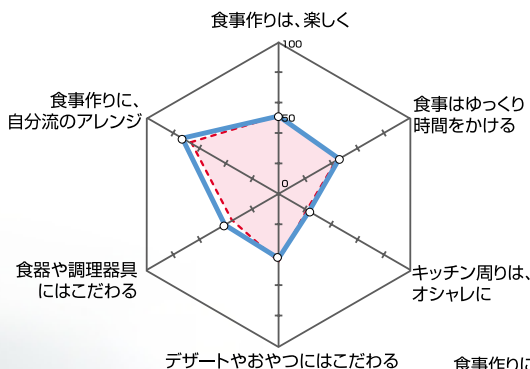
〔夫婦二人志向〕、次に〔子だくさん志向〕で食を積極的に楽しむスタイルを望む傾向があり、意識的な共通点があることが推測される。また、〔単身志向〕以外の家族形態で、「キッチン周りをオシャレに」することを60%以上の人が望んでいる一方で、「食器や調理器具にこだわる」人の割合は低い。比較的多くの人が、食器などキッチンの一部ではなく、キッチン周り全体をオシャレにする食スタイルを望んでいることがうかがえる。

●家族形態別『できている』スタイル

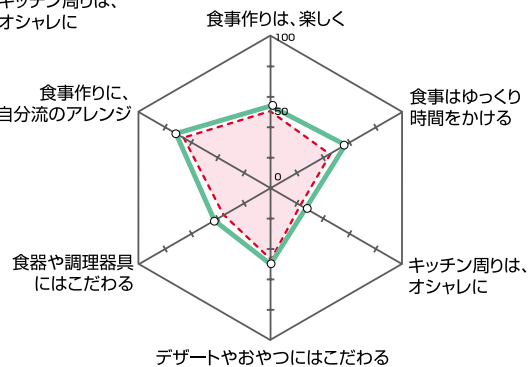
※『したいと思う』と答えた人のうち、『できている』と答えた人の割合。

〔夫婦二人志向〕の人は、ほかの家族形態に比べて実現度が高く、食を楽しむスタイルをうまく実現できている。一方で、〔子だくさん志向〕では『したいと思う』度合いが高い割に実現度が低い。また、〔一人っ子志向〕でも実現度がやや低く、子供の有無が食を楽しむスタイルの実現度に影響していると考えられる。また、「キッチン周りをオシャレに」は、すべての家族形態で実現度が低く、実現がやや難しい食スタイルであると考えられる。

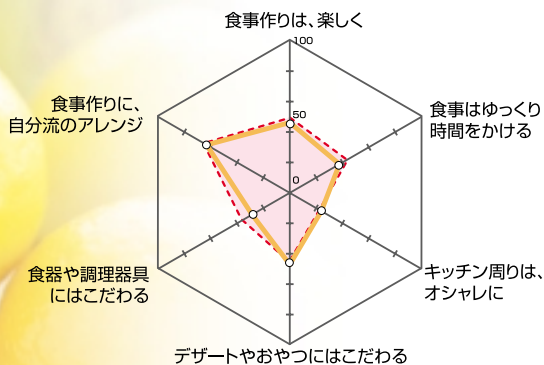
単身志向



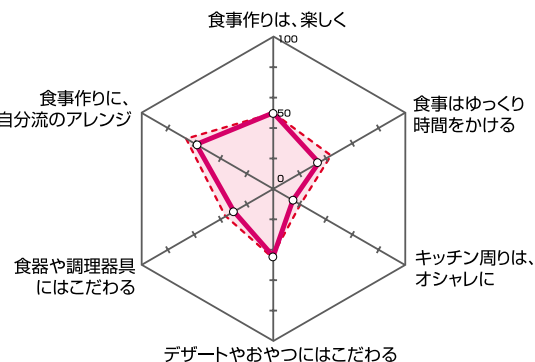
夫婦二人志向



一人っ子志向

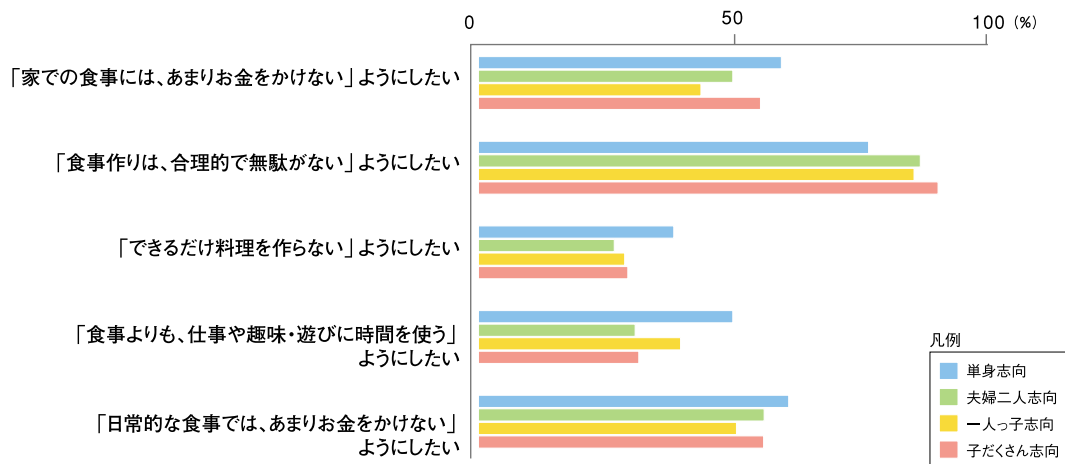


子だくさん志向



食に対するコストや手間へのスタイル

●家族形態別『したいと思う』スタイル

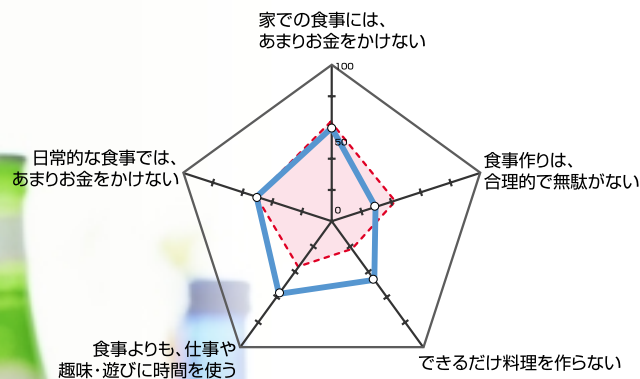


食に対してコストや手間をかけないスタイルでは、他の食スタイルとは違い、〔単身志向〕の人が望む割合が高くなっている。〔単身志向〕では、できるだけ食以外のことにお金や時間を使い、料理などはしたくないという気持ちが強いと考えられる。ただし、「食事作りを合理的に無駄がないように」はすべての家族形態で望まれているスタイルであった。

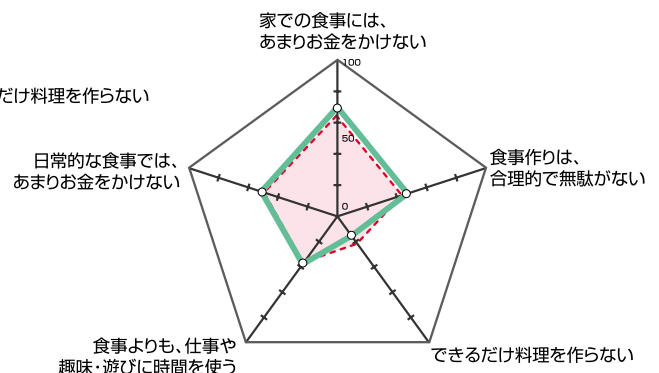
●家族形態別『できている』スタイル

※『したいと思う』と答えた人のうち、『できている』と答えた人の割合。

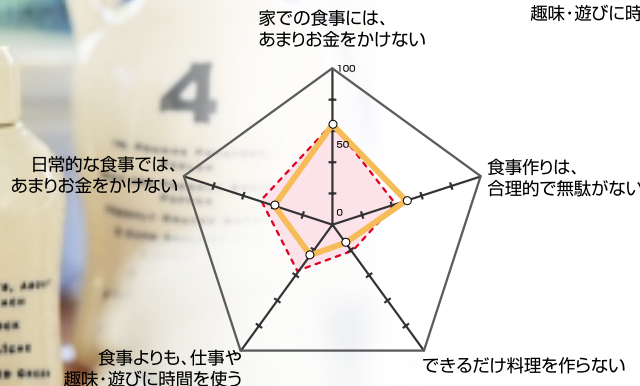
単身志向



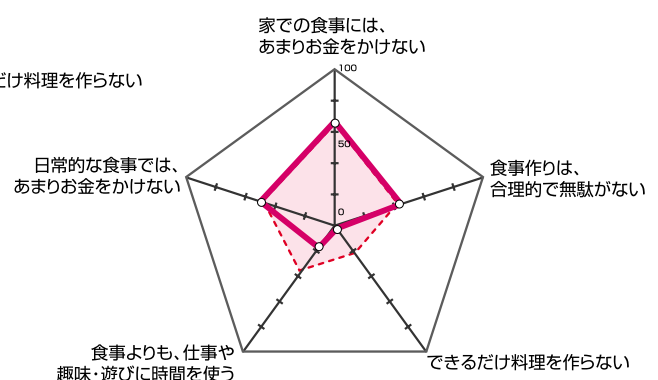
夫婦二人志向



一人っ子志向



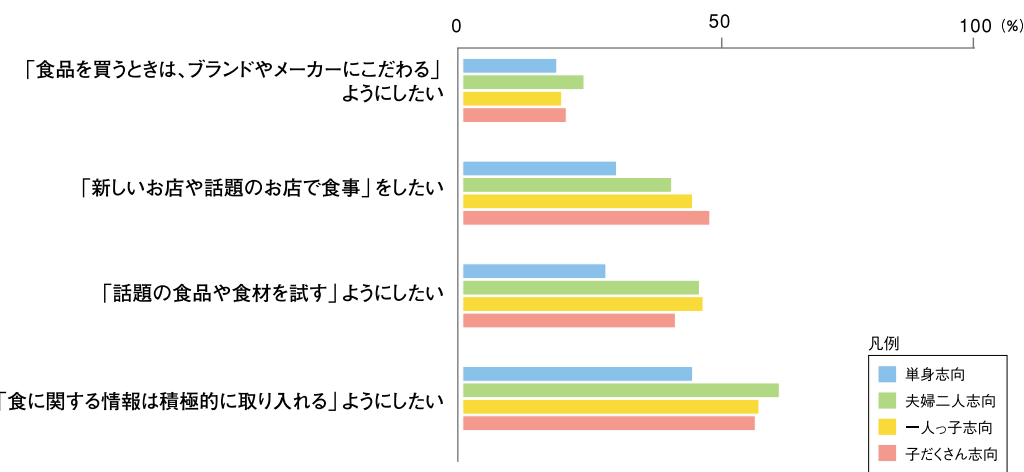
子だくさん志向



子供のいる世帯に比べると子供のいない世帯では、食に対してコストや手間をかけないスタイルの実現度が高い。特に〔単身志向〕では、「料理を作らない」「食事よりも仕事や趣味に時間を使う」の実現度が高い一方で、「食事作りを合理的に無駄なく」が低い。普段料理をしないために要領よく済ませることができない姿が想像できる。

食の情報に対するスタイル

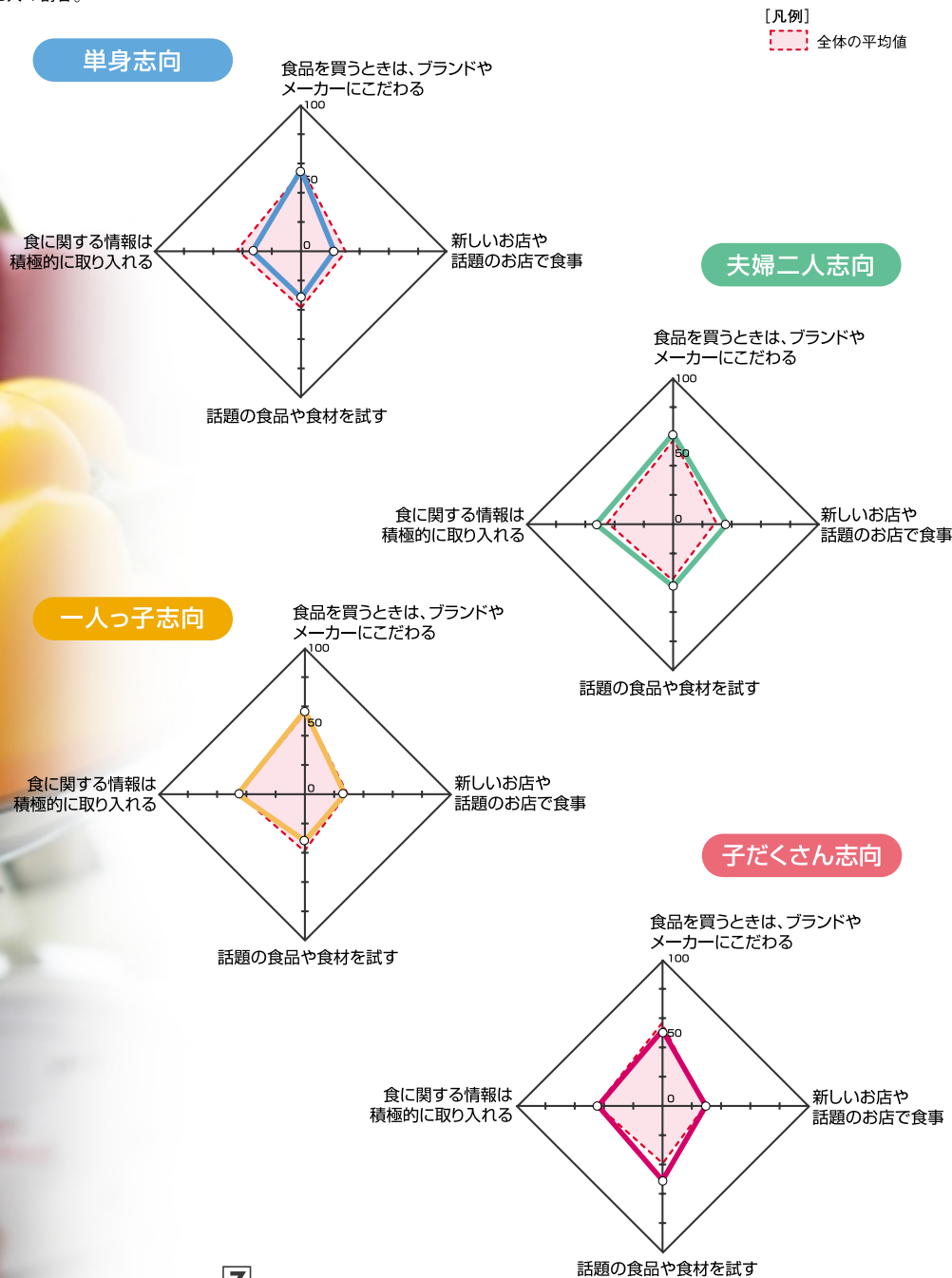
●家族形態別『したいと思う』スタイル



食の情報に対するスタイルは、全体的に『したいと思う』度合いの高い項目が少なく、「ブランドやメーカーにこだわる」は、20%程度である。その一方で、「食に関する情報を取り入れる」に関しては、すべての家族形態で50%前後の人が望んでおり、多くの人が、食に関してブランドやメーカーといった情報よりも、さらに踏み込んだ情報を望んでいる可能性がある。

●家族形態別『できている』スタイル

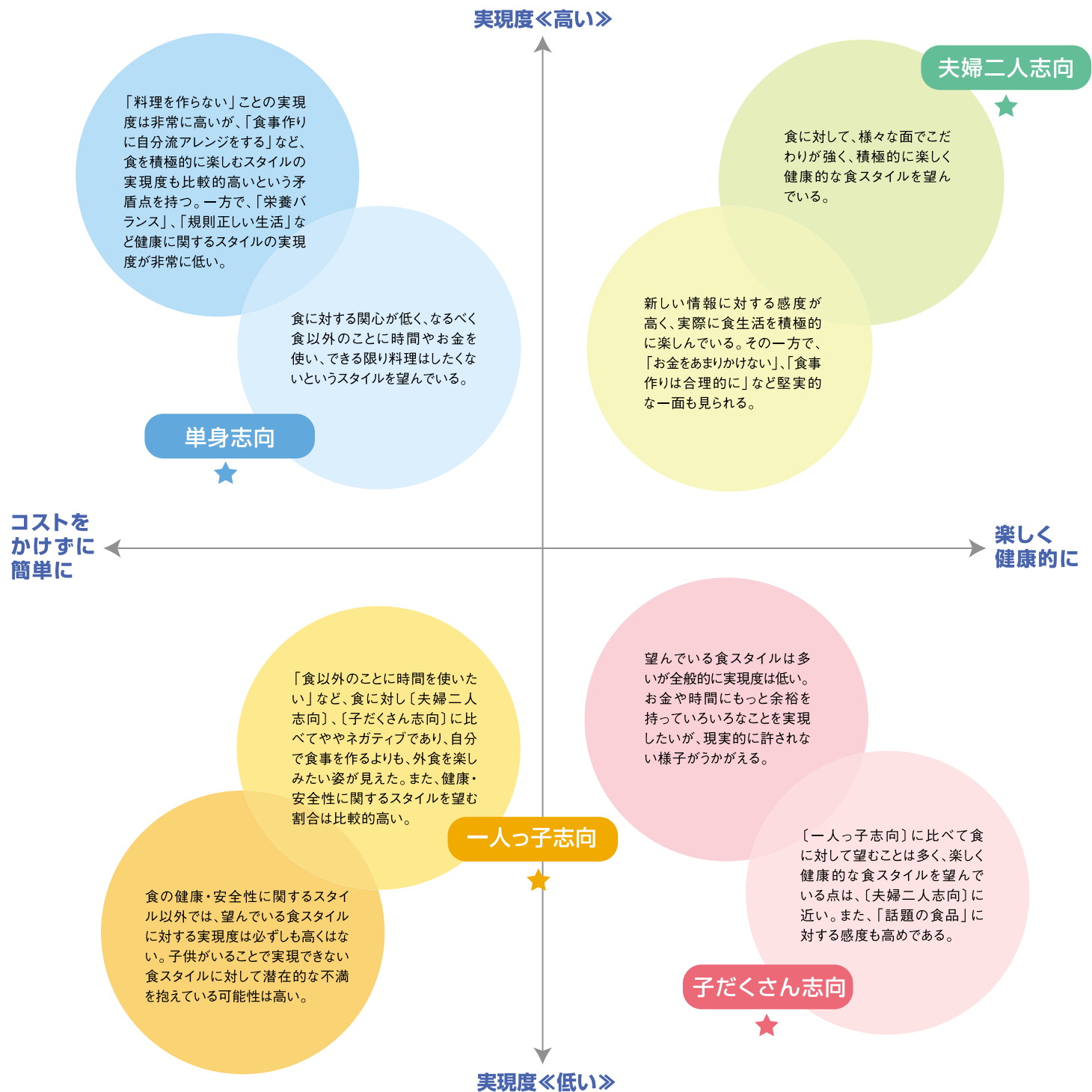
※『したいと思う』と答えた人のうち、『できている』と答えた人の割合。



他の家族形態に比べて、[夫婦二人志向]の人が食に関する情報を実際に取り入れている様子がうかがえる。また、[子だくさん志向]では、「話題の食品や食材」に対する感覚がやや高い傾向がある。食を積極的に楽しむスタイルや健康に気を使うスタイルを『したいと思う』意識が食に対する感覚の高さに影響しているとも考えられる。

『したいと思う』食スタイルと実現度

— 家族形態による特徴イメージマップ —



調査概要

調査対象	全国の20～40代女性
サンプル数	600 ※事前にスクリーニング調査(10483サンプル)を実施し対象者を抽出
調査方法	インターネットリサーチ調査(株式会社インフォプラント)
実施時期	2006年1月26日～2006年1月29日

日清オイリオグループ株式会社

■お問合せ先

生活科学研究室

<http://www.nisshin-oillio.com>

〒104-8285 東京都中央区新川1-23-1 TEL.03-3206-5218

R100

古紙配合率100%再生紙を使用しています。

PRINTED WITH SOY INK

LEO STEP VOCsゼロ

この報告書は、環境に配慮し、古紙配合率100%の再生紙を使用しています。またインキは、揮発性有機化合物を含まない大豆油のNon-VOCインキを使用しています。